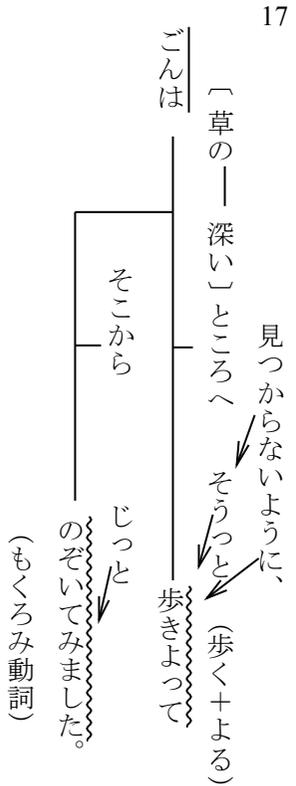


16 ふと見ると、川の中に人がいて、何かやっています。そこからじつとのぞいてみました。

17 くんは、見つからないように、そうつと草の深いところへ歩きよ

語彙的・文法的意味・構造

・ふと見ると＝条件の形 主体はくん

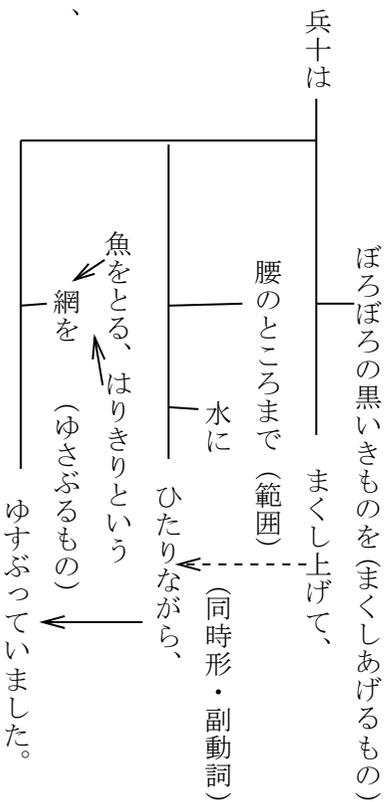


指導の要領・留意点

○川下の方へと歩いていくくんが、ふと見ると、人影があった。それは、まず、川の中の人影で、何かをやっているのだ。映像が、まず、存在と大まかな動きだけを示す。これを見逃すくんではない。

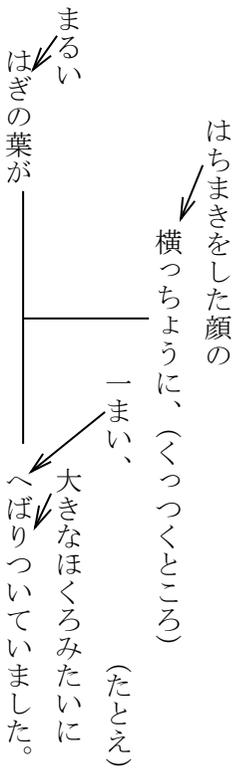
・その人影が何かをつきとめようとするくんの行動が鮮明に描かれている。

18 「兵十(ひょうじゅう)だな」と、くんは思いました。 19 兵十はぼろぼろの黒いきものをまくし上げて、腰のところまで水にひたりながら、魚をとる、はりきりという、網をゆすぶっていました。 20 はちまきをした顔の横っちょように、まるい萩の葉が—まい、大きな黒子(ほくろ)みたいにへばりついていました。



・まくし上げる＝捲くつて上に上げる。まくり上げる。「腕を—」
 ・くながら 同時におこなうついでの動作は、副動詞で表します。副動詞は、副詞と同じように動詞をかざって、動きのようすをくわしく説明することができます。「先生は、ピアノを弾きながら、うたを歌っている」「かよは、夕づるの物語を泣きながら読んだ。」

(兵十がはちまきをしているのだ)



・へばりつく＝ぴったりとくつつく(俗語)「やもりが壁にへばりついてる」「そう机にへばりついてばかりいないで、すこし運動しなさい。」

○じつとのぞいてみた(文二) 結果の判断と、兵十のようすを描く。川の中に人がいた。その人は、兵十で、何をやっているかわかった。はりきをゆすぶっている、ということだったとわかったわけだ。

・兵十だな—兵十を知っていることがわかり、そして、そうつと確認する気持ちが読みとれる。ようし、という気構えが見られるだろう。

・兵十の姿も、いきいきと映像的に描かれている。ぼろぼろの黒衣着物で、彼の環境や境遇がかいまみられる。こしのところまで水にひたりながら、は、まじめな仕事ぶりを思わせるし、はぎの葉がくつついたという表情も、それだけに、滑稽さまでも描きだす。

・はぎの葉が—へばりつく＝擬人化。兵十がつけたのではなく、葉がへばりついた、という書き表し方だが、へばりつくということの内容にも滑稽さがあるのだろう。

・おおきなほくろみたいに＝たとえ。はぎの葉がへばりついてるようすが、黒い大きなほくろがあるのになっているわけだ。

21 しばらくすると、兵十は、はりきり網の一ばんうしろの、袋のようになったところを、水の中からもちあげました。22 その中には、芝の根や、草の葉や、くさった木ぎれなどが、ごちやごちやはいっていました。でも、ところどころ、白いものがきら光っています。

・しばらくすると＝時間がすこしたったことを示す。この場合、ごんはただじっと見ている（まだ、何もしていない）ということも同時に表している。
・その中＝兵十が持ち上げた網の後ろの袋になったところ
・ごちやごちや＝混乱して、秩序のないさま。ごたごた。「いろんなものを＝ならべる」「＝とする」

○文21は「9のゆずぶっていました、の後に続く動作だ。はりきりあみによる魚のとり方や、網の構造なども読みとれるだろう。
・文22は、網の中のように。「が」で接続されたならべあわせ文。「ごちやごちやと入っていたが、でも、」と、成果をにおわせる。その成果が「白いもの」だ。これも、視覚的な表現、まだよく見ないとわからないのだ。

23 それは、ふとというなぎの腹や、大きなきすの腹でした。24 兵十は、びくの中へ、そのうなぎやきすを、ごみと一しよにぶちこみました。25 そして、また、袋の口をしばって、水の中へ入れました。

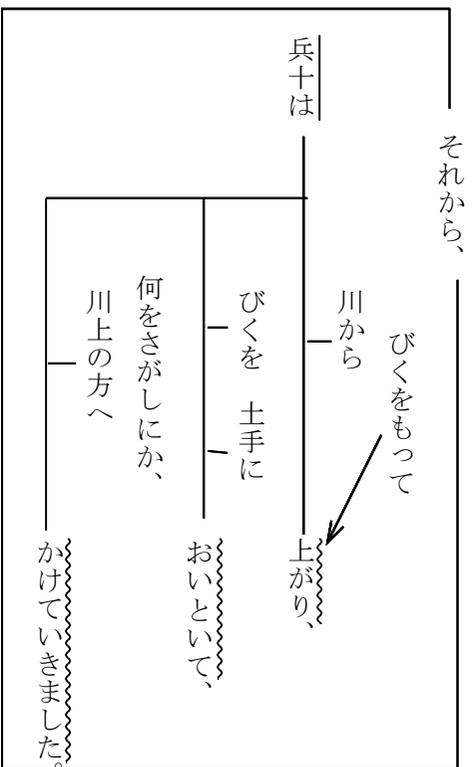
・それは＝兵十が持ち上げた網の袋の中のきらきら光る白いもの。
・ぶちこむ＝むりやり中に入れる。ある場所に閉じこめる。放り込む。「ゴミを穴に」「牢屋に」「ぶち」は接頭語

○兵十の動き。19.21.24.25と続く。
・網の中の見えた白いものは、魚の腹だったとわかる。

で、「打つ」意。また、意味を強める打ちよりも荒々しい感じを与える。「＝殺す」「破る」
・びく＝魚籠と書く。とった魚を入れておく籠。

・兵十の動作には、ある種の切迫感がある。ぶち込むという言葉方もそうだし、文20も、そして、つづく文26と一連のよう動作の中にそれが見られる。それは、人柄なのかもしれないし、その時の状況なのかもしれない。
・動きと情景とが織りあわされているが、そのひとつ一つを正確に映像化・感情化させたい。

26 兵十はそれから、びくをもって川から上がり、びくを土手においといて、何をさがしにか、川上の方へかけていきました。
27 兵十がいなくなると、ごんは、ぴよいと草の中からとび出して、びくのそばへかけつけました。28 ちよいと、いたずらがしたくなったのです。



・何をさがしにか 何かを さがしに
何を さがしにか 何を さがしにか
何をさがしにか わからないが
・兵十がいなくなると＝条件をあらわすつきそい文

○前の文に続く兵十の動き。慌ただしさがある。「何をさがしにか」は、何かをさがしに行ったのだろうか、というふうにとらえられたい。上の三例は、すこしずつ内容が違うことも気づかせたい。

○文27は、ごんの動き。兵十がいなくなった、という状況を条件としている。文28は、「のです」で示される27の理由としてよいだろう。

・ぴよいと＝いかにも身軽く、気まぐれな感じで草むらから飛び出す。そして、びくのそばへかけつけるのだ。いたずら小ぎつねの形象が生き生きとしている。

・ちよいと＝ちよつとよりも軽い。いかにも思いつきだということとを思わせる。しかし、ここで「いたずらがしたくなったのです」と書かれていることで、ここまではいたずらをねらっていたのではなく、兵十の動きに目を奪われている好奇心の強いごんの姿がわかる。兵十がいなくなったという条件が、はじめて、

・飛び出すとぶすだす

・かけつけるにかけける十つける 走って、また、大急ぎでやってくる。到着する 「火事場にー」「歯が痛むので、歯医者にー」

・のだに文の意味を強めるために、述語になる単語に「のだ」「のです」をくつつけることができます。「のだ」「のです」は、むしろのくつつきです。

これは、強めのほか、現前の事態や前に述べたことから理由の説明としてはたらく事実を述べる文に使われる。

*「のだ」についても、その後、研究が進み、整理されている。「強め」の役割よりも、「説明」の役割の方が主のようである。

いたずら心に火をつけた、と見ることが出来る。

29 ごんはびくの中の魚をつかみ出しては、はりきり網のかかっているところより下手の川の中を目がけて、ぼんぼんなげこみました。 30 どの魚も、「とぼん」と音を立てながら、にごった水の中へもぐりこみました。

・つかみだしては「つかみだして」という動きのくりかえしを強調する感じがある。条件の形の一つであろう。

・投げこみましたに投げる十こむ

・ぼんぼん①連続して破裂するような音。「鉄砲をー撃つ」「火花がー上がる」「太鼓をー打つ」②遠慮なくものを言うさま

「あの人は、思ったことを何でもー言う」

・音をたてながら同時形・副動詞、ついでにする動作を表す。

○ごんのいたずらが始まるわけだ。びくの中の魚をつかみだして、それを川の中にもどすのだが、網よりも下に投げこむところなどにも、いたずらの本領が発揮されている。ぼんぼんという擬態語にも、思い切りのよい敏速な動きが読みとれる。

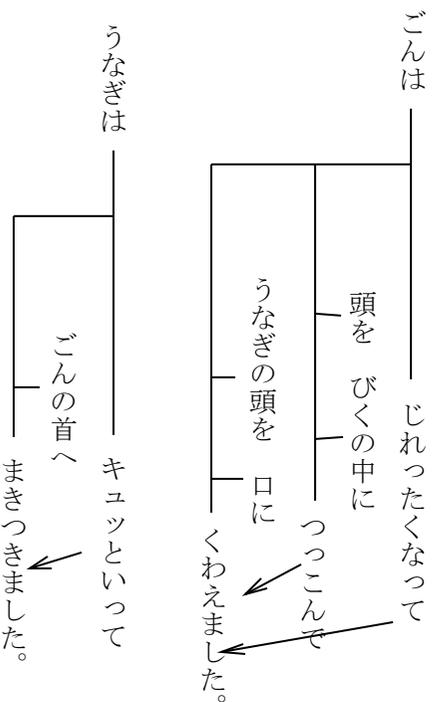
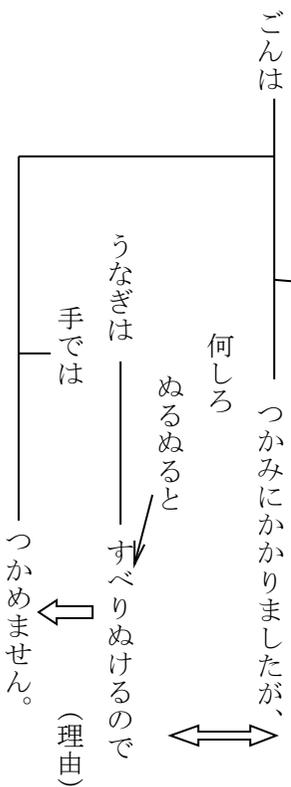
・文30は、投げこまれた魚のようす。トボンという擬声語も魚が大ぶりなこと、流れている川へ投げこむこと、魚を投げこむことなどを鮮やかに描いている。

31 一ばんしまいに、太いうなぎをつかみにかかりましたが、何しろぬるぬるとすべりぬけるので、手ではつかめません。 32 ごんはじれつたくなって、頭をびくの中につつこんで、うなぎの頭を口にくわえました。 33 うなぎは、キュッと行ってごんの首へまきつきました。

・つかみにかかるに「つかみに」は目的だ。それに、「かかる」(意味は、下記参照)が結びあわされて、つかもうとするということ強めているように見える。「つかみかかる」とはちがう。

いちばんしまいに(順番)

太いうなぎを(対象)



○ごみの中から魚をつかみだしては、ぼんぼん投げこんでいたが、終わりにうなぎが残ったのだ。しかも太いうなぎだ。これは、あとで重要な役を果たすが、今はわからない。そのうなぎとのかかわりが描かれている。

・つかみにかかる、なにしろ については、さらに、はたらき、指導法を追求する必要がある。

*「かかる」に次のような意味がある。一

物事に着手する。しはじめる。「仕事にーる」「取り壊しにーる」その事に当たる。従事する。「今ーっている仕事」

・文31は、主語が省略されていて、しかも「ごんは」と「うなぎは」と、二つのちがう主語を出し、うなぎについての記述はさしはさみだから、述語をもとに、主語をきちんと補わせる必要がある。

・文32は、いかにも野生にあふれるごんの姿がある。

・文33は、くわえられたうなぎの描写。うなぎの動きは、①キュッと行って ②首にまきついた の二つだが、この二つは、順次性よりも同時性の方が強いように見える。ここでは、いちおう②のようすとして、①を位置づけてみた。しかし、両方とも述語でもよい。

*「中止形」については、「文図の効用」を参照願いたい。